

令和2年度第5回白井市市民活動推進委員会（全体会）会議録

1. 開催日時 令和3年3月5日（金）午前10時30分～正午
2. 開催場所 白井市役所 本庁舎2階 災害対策室2・3
3. 出席者 関口宏聡委員、清水洋行委員、長島悟委員、近藤健司委員、湯浅章吾委員、川鍋正治委員、大田茂子委員、迫田妙子委員、黒木弘司委員、篠崎慶子委員
(名簿順)
4. 欠席者 亀川香委員
5. 事務局 松岡課長、保科主査、中原主査補、高橋主事補、
6. 傍聴者 なし
7. 議 事
 - (1) 令和3年度白井市市民団体活動支援補助金について
 - ①募集要項、応募書類等の修正箇所の報告〔説明〕
 - ②書類審査（第1回）及び公開プレゼンテーション審査（第2回）の日程調整
 - ③成果報告会（第3回）の日程調整
 - (2) 地域活動の担い手を増やすためのアイデアについて〔意見交換〕
 - (3) 令和3年度市民活動推進委員会の予定について〔説明〕

8. 会議概要

- (1) 令和3年度白井市市民団体活動支援補助金について

- ①募集要項、応募書類等の修正箇所の報告〔説明〕
- ②書類審査（第1回）及び公開プレゼンテーション審査（第2回）の日程調整
- ③成果報告会（第3回）の日程調整

〔事務局〕 次第の1番の①募集要項、応募書類等の修正箇所の報告ということで、前回会議の中でいろいろ御指摘いただいた部分をこちらで修正をいたしましたので、その御報告ですので、順を追って資料を見てください。

まず資料の1番、募集期間というところ、真ん中にありますが、前回4月中の募集ということで御了承いただきましたので、明確な日程を入れさせていただきました。4月1日木曜日から4月30日金曜日。QRコードのところ（仮）となっておりますが、白井市のホームページが3月2日にリニューアルされまして、ホームページのURLが変わりますので、ここは新しいもので作り直して貼り直しますので、よろしく願いいたします。

1枚めくっていただいて、1ページ、前回まで写真のほうで、1枚は掲載予定、1枚は前年度の写真だったのですけれども、両団体とも写真を頂きまして、紹介ページという形で貼らせていただきました。

続いて、4ページ、補助対象となる経費というところで、会議の中で、新型コロナウイルスに係る費用は認められるのではないですかというお話がありまして、表の下、米

印で、新型コロナウイルス感染症予防対策に係る経費も対象経費となりますということで、一文を入れさせていただきました。

隣に行きまして、5ページ、市民団体活動支援補助金の申請に関する説明会ということで、前回まで日程・場所、仮のものが入っていたのですけれども、3月23日火曜日、10時から11時半で、ここと同じ会場、本庁舎2階災害対策室2・3で説明会を実施するというので日付を入れさせていただきました。

また、提出書類、下の表のところですが、今までそれぞれ年度、⑧番、⑨番のところですが、令和2年度とか平成31年度といったような数字が入っていたのですけれども、直近のものを出していただくということで、この記載が直近の年度の事業報告書を出す、直近年度の収支決算書を出すという形で内容を加えさせていただきました。

続いて、8ページになります。

8ページ中段に、今まで公開プレゼンテーションの内容、5分間のところで事業説明ということで求めておりましたが、次年度の公開プレゼンテーションの内容としましては、事業のPR（発表・実演）などということで、焦点を絞ったPRをしていただくということで記載のほうも直させていただきます。括弧書きで、事業の説明よりもPRに重点を置きますということと、米印で、事業の説明は、申請書類にきっちり記入をしておきましょう。米印で、審査員は、申請書類を事前に確認した上で審査に臨みますということで、事業の説明は書類のところで行っていただく、公開プレゼンテーション現場では、5分間を使って発表・実演等でPRをしていただくという形に明確に直させていただきました。

あとは、11番の審査結果の通知というところで、募集期間が変わった関係上、通知は6月中旬に行いますということで、およそ2か月日付が遅くなりました。募集期間に合わせたものです。

最後の10ページに、補助金手続きの流れということで、募集期間とか説明会の部分が空欄になっていました。また、スケジュールの年月というところが、「〇月」となっていたのですけれども、スケジュールのほうは、3月から始まって4月、5月、6月、10月という形で記載をしました。

続きまして、資料の2番ですね。応募申請書、あと記入のポイントといったものをまとめたものになります。資料の2ですね。

1枚めくっていただいて、右側のページ、事業計画書の事業スケジュールを書く欄ですが、こちら以前は、4月、5月、6月と横線が引いてあって、毎月毎月何か埋めなければいけないというようなお話があったのですけれども、横線を消しまして、4月から3月の中で必要な部分に必要な項目を書いていただくように直しました。

また、右側の担当人数というところも、前は場所・人数等となっていて、何を書けばいいのかとはっきりしないということがあったのですけれども、明確に団体さんの担当人

数を書いていただく欄に修正をいたしましたので御報告いたします。

あと、一番最後のページ、記入のポイントの中で、六つの視点で審査をしますということがうたわれていたのですけれども、記入のポイントなどには、六つのうち五つしかないですよという指摘がありまして、漏れていた自立性については、一番最後、補助金の終了後の展望というところに、審査項目の「自発性」・「自立性」を意識して記入しましょうというところで、自立性をここにも視点を入れていただくということを追加させていただいたことと、資料2の3枚めくっていただいたところ、ページが振ってなくて申し訳ないのですけれども、収支予算計画書の記入の一例（活動促進型）というところの中段に、審査項目の「自立性」を意識して記入しましょうということで、あくまで自立性については、収入的な会の財源的なところの自立を目指して、この予算書のほうでPRをしてくださいということで、こちらにも一つ枠を加えさせていただきました。

①番の募集要項等の修正箇所についての説明は以上になります。

[委員長] ありがとうございます。

そうしましたら、今の点について、おおむね前回出た指摘事項は修正していただいたと思うのですけれども、ほか追加で何かあれば、皆さんからお願いいたします。

[委員長] まず先に、〇〇さん、どうぞ。次、〇〇さん。

[委員] 資料の2、事業計画書の記入のポイントのところに、これを書いたから、どこを見るのですよというのを書いていただいたので、とても分かりやすくなって、書くほうの立場で考えると、ああ、そうだったのかという感じになります。

それに関連して、資料1の審査項目なのですが、公益性が10点ですよ。ほかはみんな5点なのですが、もちろん市民活動団体ということで公益性は重視するのですけれども、これを書く上で公益性、ほかのものより倍の点数があるのは、ここを一番アピールするといいですよというのをどこかに付け加えてもらおうと、より良かったかなと思います。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。

今のは、そういうことでということによろしいですか。

[事務局] はい。

[委員長] 次、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 内容についてはたくさんあるのですけれども、それ以前に、これが今までのこの中で出てきた中が全部がフォローされているかどうかというのが分からないのですけれども。今まで出た意見というのは、どういうふうな扱いになっているのかなというのがあって、例えば普通であれば、みんなから出た意見というのは、きちんと一覧にされて、それに対しては、こう対応がされましたとか、これはこういった理由から対応されませんでしたということで、全て、せっかく頂いた指摘に対して、対応されたかどうかという、漏れがないかどうかというのが分かるのですけれども、今これ前からぱつと言われただ

けなので、記憶にないものというのが、もしかしたらあるかもしれないなと思っていて、そういうのがどうなっているのかがよく分からなくて。特に議事録が、全然議事録になっていないじゃないですか。あれは、一般的には議事録とは言わず、ただの書き起こしだったので、全然、議事録としての役目を果たしていないから、そういったのはきちんとまとめないと、せっかく委員の方から出られた意見というのは、そのまま忘れ去られてしまうこともあるので、そういうのはまとめてくれないと困ると思います。

[委員長] ありがとうございます。

では、事務局、何かコメントありますか。

[事務局] 御指摘のとおりだと思います。今回については、前回の会議の議事録、皆さんの発言を順番に全部聞きまして、全部潰していった形なので、この間頂いた意見は基本的に反映しているというつもりでおります。それが対比して、ここをこうこう、これはできなかつたという表みたいなのを用意すれば、なおよかつたかなということで、御指摘のとおりだと思います。

[委員長] 前回は反映していただいたということで了解なのですがけれども、今後の会議運営の在り方として、今の御指摘は、確かに私も、何回も言って申し訳ないのですがけれども、ほかの自治体のこの手の会議体では、確かに出了意見を項目ごとに整理していくセルとか作って、それについては反映するとか、改変して反映するとか、一部採択、全部採択で、様々な事情により、今回はそれを反映するのは困難であるとかというのを一個一個潰していくという作業は、確かに事務局さんやっているのので、工数もかかる話だとは思いますが、せっかく皆さん貴重な時間を使って、この会議出ているということも考えると、それはぜひ私からもお願いしたいと思います。〇〇さん、取りあえず今回はそういうことでいいですか。次回以降、改善を図るということで。

[委員] はい。

[委員長] ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 資料1の4ページにある、付け加えられた、新型コロナウイルス感染症予防対策に係る経費も対象経費となりますとあるのですが、これには条件がありますとか、何かこういうものだったら対象になりますとかいうのはあるのでしょうか。例えばセンターでしたら、Zoom対応のためのパソコンを購入しても、コロナ対象になるのです。だから、その辺りって何か目安があるのかなと思って、お伺いします。

[委員長] 事務局、お願いします。

[事務局] 基本的には、もともとある要項の中で対象となるものを全てここに、表の中に入っているのので、ここにそもそも当てはまるものであれば大丈夫ですということで。今まで、例えばアルコール消毒とか除菌シートとか、通常の活動では要らなかつたものとい

うか、ただ、この項目の中でもともと認められているものの範囲で、その事業と直接本当に結びつくのですかといったときに、コロナの関連で買うという説明がつけば、パソコンが一概に駄目だよとか、機械が駄目だよということではなくて、もともと備品とか、そういった購入費は認められているので、そこがよりコロナによって、今までだったら認められないはずのものが認められるという説明があれば大丈夫だと思います。このコロナに対して、一個一個線引きを作るという予定はございません。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 細かいことなのですけれども、資料2の表紙の5の添付書類一覧なのですけれども、ここの(6)と(7)が前年度の事業報告書、前年度の収支決算書というふうになっていまして、これは資料1の5ページだと、直近年度としたのですけれども、これって対応しているのですでしたっけ。対応させる必要があるかどうかで確認していただければと思います。

[委員長] お願いします。

[事務局] 御指摘のとおりだと思いますので、こちらのほう、「前年度」の部分を「直近年度」と直して、来年度の募集のときにはお出しいたします。

[委員長] ありがとうございます。

続けて、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 資料の先ほどの書き方のところですが、4ページのところ、印刷製本費ということですが、その下に括弧として「要見積書」というような形で記載がされていますけれども、対象となる経費を見ますと、ポスター、チラシというような形の見積りがあれば、それ以外のものについては、見積書がなくてもいいという解釈でよろしいでしょうか。全ての項目について、見積りが必要ということではなくて。

[委員長] 事務局、お願いします。

[事務局] 費目の中で、印刷製本費と委託料、あと備品購入費、こちらについては、正式な見積書を取っていただいて額を示していただくという形で、この3項目については、出していただくことが必要になります。ほかのものについては、省略という形で最終的には領収書をつけていただければ大丈夫です。

[委員長] どうぞ、続けて。

[委員] そうしますと、会議資料等の印刷費とかコピー代についても、見積書が必要という解釈なのでしょうか。

[事務局] コピーについては大丈夫です。業者をお願いをして、チラシを作るとかポスターを作るといったときのピンキリなものですね。そういったものについては頂きます

ので、同じ欄に書いてあるもの全てかというのと、判断を個別にさせていただくことになり
ますけれども、コピー代とかは大丈夫です。

[委員長] よろしいですかね。

そこら辺、確かにこの書き方だと、印刷製本費の科目を使うもの全部が見積書必要なの
で、コピー代でも必要かなというふうに、素直に読めばそう読めちゃうので、何かここは
記載を工夫していただいてもいいかなと思いますけれども。

ほかの方。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 細かいのはいっぱいあるのですけれども、主なやつだけ。補助金手続きの流れ
という10ページについてなのですけれども、この図はもっと見やすくというか、ほかのと
ころの状況。

[委員長] 〇〇さん、マイク入っていますか。

[委員] 声が小さかったかもしれません。申請の流れの手順が、この一つの表で全体が、
ほかのところを見なくてもいいぐらいに書けたらいいなと思っていて。何を言っている
かというのと、まず「必須」と書いてあったら「事前相談」というのが入っていなかったり
するのです。ですから、中で必須のものとか、全員がやらなきゃいけないものというのは、
この中に全て埋めてあげたほうがいいかなというふうに思います。

あと、その前のページに、9ページとかに、いろいろ中間ヒアリングの実施とか何とか
というのは、これは採択事業が申請前とか、実施中とか、実施後という形でまとめられて
いるのですけれども、何かこういったスケールも、この流れに入れてあげるとするか、一
番左のところ、実施後はこのところになるのですよとか、実施中ここになるのですよ
とかというが入っていると、この9ページの型をリンクさせて見やすくなるのかなと
いうふうに思います。

もう一つ、前回、たしか私、聞いたと思うのですけれども、このガイドで何にも知らない
人が書けますかというのをやっていたのでしょかというのがあるって、特に今回、
自立性を意識して書いてくださいというコメントがひょろっと入っていたりするの
ですけれども、それを言われたときに、自立性を意識するというのはどういうことだろう
と。どう書けばいいのだろうというところがあるって。この自立性のことって、今年、審査
やったときにも思ったのですけれども、すごく分かりづらいのです。全体の予算に対して、
どのぐらいが自分で賄えれば自立性があると考えたら、ちょっとでもお金が取れてい
るのだったら自立性があるのか分らなかったんで、この自立性を意識するというの
が、どういうことだか分からないと思うのですね。

だから、これって前は、さっきの中に出てこなかったのですけれども、実際にこれで本
当に書けるか、全然こういうのをやったことない人に1回書いてもらったほうがいいで
すよという話をしたと思うのですが、これはどうなのですかね。

[委員長] 事務局、お願いします。

[事務局] 自立性のところに関しては、〇〇課長ともお話をしました。先ほどの報告にはさらっと言ってしまったのですけれども、自立性については、主に金銭面のことで審査をしようねということで、報告ではなかったのですけれども、〇〇課長とは、自立性、主にお金、事業収益を得られるとか、人がいても、お金がなければ何もできないよねということで、お金の部分の自立というのを自立性の大きな項目として捉えようという形で話をしました。

それに伴って収支計画書の中、お金のところの欄に1行、四角枠で加えさせていただいた流れになります。収支予算計画書記入の一例というところで、表の真ん中、収入と収支のちょうど切れ目のところに、審査項目の自立を意識して記入しましょうということで、白井市の自立性というのをお金のところ、収入のところでは何か見えてくれば、自立性の一端になるのかなということで、この辺は、3月23日の説明会を開催しますので、参加の団体さんには、その辺はお伝えしようと思っております。

もう一つ、今お話をされて思い出したことがあって、実際、審査を通った団体さんの記入例、そういったものをつけたら、よりいいのじゃないかということでお話いただいていたのですけれども、そこについては、今回お配りする資料としては御用意しないのですけれども、そういったこともありました。漏れていたものがありました。

[委員長] 〇〇さん、取りあえず、そういうことということで。

[委員] 今の御説明さっぱり分からなくて。だから、例えばここの書いてある自立性を意識して記入しましょうと書いて、これ記入サンプルが書いてあるじゃないですか。どこがそれを意識した書き方なのかが分からないのです。だから、どう書けばいいか分からなくて。

それで、今、何かお金の面でやりましょうと言っているけれども、自立性は。それはそうだと思うのですけれども、じゃあ、審査するとき1、2、3、4、5とかあったじゃないですか。あれつけるとときに、どうなったら3で、どうなったら5で、どうなったら1なのだというのは、審査するほうも分からないのです。自立性があるなしというのが、どう評価するかが分からない。

[委員長] どうぞ。

[事務局] この記入例の中で言いますと、事業収入というところで、参加費300円を取っているというところで、この団体は、事業をやれば収益があるのだなということで、例えばこの規模を大きくしていった参加人数が増えれば、より自主財源というのが今後増えてくるのかなというところで、全く参加費を取らないよということに比べれば、自立性の評価はできるかなというところが評価点です。

じゃあ、幾らなら何点なのだという基準は、これは各委員さん、今回、補助金でいえば6名お願いしておりますけれども、皆さん同じ基準でやったら全員同じ点数に

なってしまうので、いろいろな事業のPRポイント、その委員さん、委員さんで大事なところ、それはもう委員さんの今までの感覚で差が出て構わないと、こちらは思っているんで、あくまでも、ここはお金のことですよといったときに、10万円取っていたから5点にしてくださいとか、8万円だから4点にしてくださいという明確な基準というのはなく、そこは委員さんの感じた中で点数をつけていただいて構わないと思いますので。お金の部分に関して、その委員さんが感じたまま5段階評価を頂ければ大丈夫です。

[委員長] この議論を続けたいという面もあるのですけれども、ほかにも議題もあるので。ほかの方、募集要項について御指摘ある方いらっしゃいませんか。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 何回か話題に出ているのですが、資料1の5ページ。さっきお話あった直近の事業報告とか収支決算とか、そのところなのですが、令和2年度にコロナという状況で、活動はゼロではないけれども、ささやかにやっていたよみたいな感じが多いと思うのです。お金の面も全く動いていないわけではない。

でも、ここで要求しているのは、従来の活動をしていたときのことが分かるようなものを求めているのですよね。

[委員長] どうぞ、事務局、お願いします。

[事務局] 従来のことも当然ありますけれども、この補助金としては直近なので、前年度、その活動ができなかったとしても、前年度の状態を。

資料の団体概要という提出書類の中で、主な活動実績という欄があるので、通常の活動がもしあれば、その欄の中で、その前年まではこういった活動していたよということを書いていただければ、それもアピールになるのかなということ。

[委員長] 今回だけ例外的にやってしまうと、今後も継続して使う要項というか、様式になりますので、取りあえず、文言上は直近年度とさせていただいて、コロナという事情があるのは、団体のその活動実績とで読み込んでいこうというのが長持ちする様式になりますから。そういうことで御理解ください。

ほかの方、いかがでしょうか。よろしいですかね。

私からも1点だけ。今回4月を募集期間にしたことの一つの理由として、既存の補助金の交付団体から実績報告書が上がってきたことが、書類審査と公開プレゼンに生かせるというお話があったと思うのですけれども、それを生かすということは私も良いと思って賛成したのですが、前年度交付団体については、その活動報告というか実績報告が、少なくとも審査の参考には供されますよということは書いておくべきなのですか。書いておいたほうがよければ、直接的に採点項目に入っているわけじゃないのですけれども、自治体によっては、採点項目にも点数に入れ込んでいる自治体もありますけれども、白井市さんの場合はそこまではしないと思うので、参考にはさせていただきますぐらいは追記しておいたほうが、より真摯かもしれないなと思いました。

ということで、ほかになれば、この募集要項については、取りあえず以上とさせていただきますけれども、いいですか。

そうしましたら、次の(1)の②ということで、書類審査と公開プレゼンテーションの日程調整というのがありますので、お願いしたいと思います。

[個人的な予定の確認となることから議事内容は非公開とし、日程調整結果のみ公開]

○第1回市民活動推進委員会（書類審査）

令和3年5月19日（水）時間は未定

○第2回市民活動推進委員会（公開プレゼンテーション審査）

令和3年5月28日（金）時間は未定

○第3回市民活動推進委員会（成果報告会）

令和3年6月23日（水）午前中

(2) 地域活動の担い手を増やすためのアイデアについて [意見交換]

では、続きまして、議題の2ということで、これ1回、事務局さんのほうから御説明いただいたほうがいいのですかね。

[事務局] 議題の2は、地域活動の担い手を増やすためのアイデアについてということで、皆様方に意見交換をお願いしたいと思っております。

このコロナ禍で、いろいろな団体さんの活動がストップしちゃっているところもあるかと思うのですけれども、その以前から、地域活動の担い手というのはなかなかいないのだよというお話をいろいろな団体さんからお聞きしているところなのですけれども、白井市のほうでも、皆様方の団体のほうで有効なアイデアとか、現状をお聞きして、今後のまちづくりに活用できるようなアイデアが出てくればということで、意見交換の中でアイデアを出していただいたらなということで、お願いしたいと思います。

[委員長] これもなかなか資料も、ベースもなしにというのは難しいとは思いますが、前回の議論の延長戦ということで考えていただいて。前回、小学校区単位でのまちづくりの話とかを主に白井市さんのほうで、こういう取組をしているとか、こういう考えであるというような御説明いただきましたが、議論が盛り上がり、白井市さんに対する質疑で終わってしまったというところもありまして。今回のこの時間は、ある意味、フリートークという面もあるのですけれども、地域活動の担い手の問題というのは、どこの自治体でも、日本全国、ちょうど来週で3.11から10年たちますけれども、被災地なんていうのは、本当にその象徴でございまして、今後その担い手に苦しんでいると。

首都圏である白井市さんも、当然のことながら、これから急速に高齢化が進んでいくということも考えると、ますます日本全国、みんな同じ悩みですよというところがあります。

全国で苦しんでいる問題について、この場でいきなり画期的なアイデアが生み出されるのかというと、そう甘いものではないとは思いますが、とはいえ、現場で皆さん日々活躍、活動されている中で、いろいろお気づきの点も多いと思いますので、ぜひ白井市の市役所さんに対して、知恵を授けていただけるといいかなと思っておりまして。

これは、申し訳ないのですけれども、1回順番に、それぞれの委員にコメントをお聞きしていきたいと思っておりまして。1人3分ぐらい目安で、テーマとしては、今お話のあった地域活動の担い手を増やすための意見とかアイデアというのがあれば、直接的にそれを語っていただいてもいいですし、先ほど〇〇さんのお話にもありましたけれども、コロナの中でほとんど活動できていない団体もあるのじゃないかということもあると思いますので、まず実際にそういう影響を受けているのであれば、そこからどうやってリカバリーしていくのかとか、活動を継続再開していくためには、こういうことが必要なのじゃないかとか、そこら辺をざっくばらんにお話しいただければと思っておりまして。

それでは、順番というか、こちらから流していきたいと思うので。すみません、むちゃ振りで。

そしたら、〇〇さん、お願いいたします。

[委員] 社会福祉協議会の〇〇でございます。

当会では、ボランティア活動という部分で、今先生がおっしゃったとおり、高齢化が進んでいて、担い手が少ないという共通の課題がございます。正直言って、特効薬はないのですが、当会がやっている取組としては、まずは高齢化が進んでいるのであれば、小学校、中学校に行って福祉教育というのをやっています。それで小学生、中学生の頃からボランティア活動もしくは地域の福祉の推進のために、こんな活動をしましょうねのような授業を年に数回なのでございますけれども、行っております。

その回数を増やしていきたいということが1点と、個人の方に地域福祉もしくはいろいろな活動をお願いしても、正直言って、もう限界が来ていると思います。当会では、実は災害ボランティアの関係で、もう個人に頼らずに、各事業所、市内に10事業所、例えば商工会ですとか、工業団地協議会ですとか、いろいろな団体ございますので、そちらの団体と災害の協定を結んで、具体的には、例えば災害訓練に参加していただいて、お互いに協力していきましょうねという形の活動を今年度から始めました。

プラス地区社協さんの協力、もしくはまちづくり協議会が立ち上がってまいりますので、その辺の連携を強化しつつ、今言った若者の関係と事業者の関係、その辺を強化していきたい、このような形で取り組んでおります。

以上でございます。

[委員長] ありがとうございました。メモっておいてくださいね。

次、〇〇さん、お願いします。

[委員] 桜台センターの〇〇でございます。

公民館を活動の一つとして、地域の拠点というところがありまして、その中で地域の担い手づくりというの、一つの社会教育の一端を担っております。ですので、公民館自身の講座の中で、先ほど〇〇さんもおっしゃったように、子供たちを地域のリーダーとして育て上げるような地域リーダー、ジュニアリーダーみたいな講座を開いたりとか、あとは大人の個人に対しては、地域のサポーターを育てて、その方たちがブレインとなっているいろいろなことを考えていただくみたいな講座とか、いろいろ考えてやっています。

幾ら子供たちにそういう講座で、洗脳じゃないですけども、教育を施したとしても、ただ高校ぐらいになると、もう白井市出ていくのですね。大学も出て行って、結婚して出て行って、よければ結婚して戻ってくればいいところみたいなところがあるのです。なぜかという、交通費高いのですよね。ここを何とかしないと、定着が難しいのかなとずっと考えています。でも、ここはどうしようもないのですかね。白井市のほうで補助が出るとか何かあるといいのかなと思います。

大学もそんなに近くにはないので、絶対出ていくので、ただ出ていっても、戻ってくる環境はとてもいい環境だと思っているので、何かつなぎ止めるものが欲しいななんて思っています。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。すばらしい御指摘だと思います。まとめて、後で議論しましょう。

次、〇〇さん、お願いします。

[委員] 〇〇です。

今日の会の通知を頂いたときに、ざっと見たら、このことが書いてありまして、地域活動の担い手を増やすためのアイデアについて考えてこいという雰囲気だったと思うのですが、考えてきましたが、アイデアは浮かびませんでした。

アイデアというほどのものではないのですが、私たちも今、まちづくりサポートセンター、まちサポの登録団体です。新しい担い手を開拓するのもありなのだけれども、既存の今登録している団体さんを、もう少し使い方、使い方という言い方はおかしいのですが、発想を変えて、その人たちに呼びかけていったらどうかなという考えに至りました。

それで、組織的にどうこうという型にはめるのではなくて、今回こういう問題が起きた、これについて、皆さん、関わってくれる人いませんかみたいな、その都度募集というような感じで人を集めていく。この問題については、私は参加できるけれども、これはパスかなということもあると思うのですね。

それで、白井市としては、きちんと形にはまったこういう組織がありますというのを望んでいるのだと思うのですが、そうじゃなくて、もうちょっと緩い、みんなで作っていきこうというような目指す、そういう仕組みができてもいいのじゃないかなと思いました。

[委員長] ありがとうございます。

〇〇さん、お願いします。

[委員] いつも名前言っていなかったですけども、〇〇です。すみません。

私も、ここにこういうことが入っているのを実は今朝気がつきまして、今朝から少し考えたのですけれども、これ何もないところから発想するというのは、とっても難しいのですよ。今、何か事例がある方は、事例を紹介していただくというのはとっても大切で、こういった取組をしているというのは大切なのですけれども、これがまた今回初めて出てきたわけじゃないと思うので、何か今までの取組と結果とか、それから検討の結果とか、そういうのを出していただくとか、そういうのもあったほうが、何もないところでやっちゃうと、またゼロから始めるというと、よく巨人の肩に乗るというふうに、今までこういう結果があって、ここまでは分かったのだ、こうやれば良さそうだというところまで分かりました。じゃあ、それをもっと良くするにはどうしたらいいのだというところに、次に進めるのだけれども、そういうのがないと、同じようなところをぐるぐる、ぐるぐる、ぐるぐる行き来してしまうと思うので、こういうのも出すのであれば、皆さん事例があれば言ってください。

それと、もう一つ、こういったところは、今までの結果として検討されて、こういうところは良さそうで、こういうところは悪そうなのですよというところを出していただけると、それを見ながら、いろいろ発想できたり、うまくいっている事例を載せていただいたり、うまくいっていなかった事例を載せていただいたりすると、もっとこれ分かりやすいのかなというふうに思っています。

それじゃなくても、ちらっと調べたら、京都市とかでやっているやつとかは、この観点、こういったのを活性化するための観点というポイントがまとめられていて、例えば、こういった運営の工夫ですとか、あと住民の交流を進めるための取組とか、地域の魅力を生かすための取組だとか、外部との連携とか、参加を促進するための取組とか、きっかけをどうやって作ってやるのだとか、そういった六つの観点が挙げられていて、そういったところから事例が評価されて整理されていたりするのですよ。

確かに、こういった促進するのだといっても、何もないよりは、そういった観点から、例えばこの観点から、何か皆さん御意見はありますかといったほうが、もう少し具体的になるのかなというふうに思います。

そういった、今日、朝ちよろちよろと思ったところは、受け身ではなくて、市のほうからもちゃんと何か地域課題、こういうことを解決していきたいのだとか、こういうことをみんなでやりたいのだというのをどんどん出して、それに対して公募をするような、学校とかに依頼して、学校の中で研究室単位で、こういったところについて何か検討してもらえないかなとかというのでやって、その結果を受けて何か対策をしたりするようなこととか。

あとは、やっぱり小さい頃から植え付けないと駄目なのかなとっていて。学校教育、

小学校、中学校とかでそういった活動に、もう少し学校の中で、アメリカとかああいうところだと、投資とかを子供の頃からやらせると、大人になってからも投資をやりますよというのがあるように、子供の頃から、子供たちのコミュニティの中での地域活動みたいのをもう少しやっていくと、そういうのにスムーズにやっていけるのじゃないかなということ。

あと、やっている感をもうちよっと出したほうがいいのかなと。何かやっている感、地域活動って夏祭りぐらいしか大きいのは見えなくて、あと何をやっているのかなというのがよく分からないのですけれども。それで、市役所に来ると、こういうのをやっていますみたいのが、団体さんが載っていますけれども、市役所ってめったに来ない人のほうが多いと思うのですよ。用事がないと来ないから。もっとやっている感、活発にやっている感をいろいろなところで見せるような仕組みをつくっていったらいいのかなというふうに思います。

あとは、外国人がせっかく今だんだん増えてきたりしているから、そういう人たちを使って、英語教育とか、あと国際グローバル化とかというじゃないですか。そしたら、そういったところをうまく引っかけた取り組みとかも、もっと進められないかなというところとか。

あと、さっき、きっかけになるようなところ、交流の場というところがもう少し広げられるといいかなと。それが四季のお祭りとかだけじゃなくて、四季を通じてやれるような、今は多分コロナだから、まずいと思うのですけれども、ただ終わってからやれるような、例えば私、白井市に来て初めて思ったのは、桜が結構あるのですよ。ただ無駄に咲いているのですよ。何かちゃんと見られるような、見たりとか楽しんだりできるような桜っていうのがすごく少なくて、道路沿いだから、ここで見ていたらひかれるだろうというところとかもあったりするのですけれども。ああいうのがあるものをもう少し、みんなの交流の場にできるような形で活用して。梨でもそうだと思うのですけれども、みんなで梨もぎ祭りとかやったらいいと思うのですけれども。そういったあるものをどんどん地域のものを使って、交流できる場をどんどん機会を増やしていけば、少しずつでも広がっていくのかなというふうに思いました。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。後で録音から起こしてやっていただけると思いますので。

続きまして、〇〇さん、お願いします。

[委員] 私は今、3つの団体に所属しています。一つは老若男女30人くらいの団体。もう一つはご近所の10人くらいの団体。さらに、つい最近同年代の女性ばかりの団体に入りましたが、とても居心地がいいです。それぞれの団体で、まちサポに団体登録するとことを提案してみましたが、何か制約があるのではとか、自分たちは自由にやりたいという意

見が多いようです。

私が活動を通じて実感していることは、元気なシニアがたくさんいらっしやることです。超高齢化の白井市だからこそ、その人たちにどんどん出て来ていただくことが重要だと思います。その為にどうすれば良いか考えるだけでなく、何かをすぐ実践してください。気力、体力、知力のあるシニアに地域活動をしていただかなくてはもったいないと思います。

どのようなことが市としてできるかですが、例えば、活動には拠点が必要です。その拠点となる市の施設利用にシニア割引制、ポイント付与制を設けてはどうでしょうか。あと、私はこの町に20年あまり住んでいます、白井市って顔が見えないところだと感じています。それを強く感じたのは、我孫子市のイベントツアーパンフレットをみると興味深い。また、印西市では少し回ってみても、古くはナウマン像から木下貝層、古墳群から印旛飛行場掩体壕跡まで見られる。この地域はこんな歴史がある町だと思える。また、新しい住宅街のなかにウォーキングコースが作られていたり。白井市を回ってみてこの地域は特に印象が残らないのですが。白井市では朝市をやっていますが、以前水戸市のマルシェにたまたま行ったのですが、ただ地元の野菜を売っているだけでなく、手作りのいろんなものを売っていて文化度が高い所だと感じましたし、また寄ってみたいと思いました。白井市の朝市にたまたま訪れた人がまた行ってみたいと思えるような何かプラスαがあれば、朝市は白井市の顔の一つになるのでは。

駅前の風景は開発で随分変わりました。20年前には、駅前の空き地で子供とにほんたんぽぽを探したり、ヒバリの囀りを聞いたりしました。野鳥の姿も少しずつ減ってきています。駅前はまだガチャガチャした感じ。白井市の顔として住まいの身近にいる野鳥の存在は魅力的な材料だと思うのですが。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。

〇〇さん、お戻りですかね。いいですか、そのまま。

[事務局] 私のほうは退席させていただきます。

[委員長] ありがとうございます。

続きまして、〇〇さん、お願いします。

[委員] 私は、第二小学校地区社会福祉協議会の〇〇と申します。

社会福祉協議会、市のほうにもあります。今日、事務局長さんが来ていますけれども、その系列組織と言えと言われているのですけれども、そこから指導とか受ける末端の地区社会福祉協議会です。

現在、私どものところは約20人、第二小学校、在来地区でもっと若い会員さん、推進員というのですけれども、活動する方、農業なんかやっている方は生涯現役という考えがありますので、なかなか会員になってくれないのです。会員になってくれるのは、市の関係

者、退職してからとか、そういう関連が多いのです。

一番今考えているのは、私は何にもしないで、年に1回、地区のお年寄りを集めて、お茶飲ませてあげたらとか、あと、第二小学校全体地区で集めて、お茶、カラオケ、そんなことで濁っていたのですけれども、だんだんこういう会議とか出たり、いろいろな会議の中で、もっといろいろなものを求められているような感じなので、私は困っているようなところなのですが。

自分のところで考えると、今まであんまり前向きじゃなくて、PRが足りなかったのかなとか、一挙に会員取得してまとめようとか、いろいろ考えはあったのですけれども、何でもできることをそこから一部協力してもらえるような、あと推進委員のPR、それが大事かなとは考えています。

今やっている仕事は、お年寄りを集めてお茶出しているとか、小学校さんから、昔の盆踊り、ああいうのを教えてくれないかなんて言われて、行って踊りを教えて、じゃあ、小学校に体育祭のときは、行って一緒に踊ろうとか。

それと、うちのほうは、今は中止しているのですけれども、オーストラリアのほうから高校生が来て、学校でグラウンドゴルフを小学生と一緒に、そういうのも今は小学生だけはやっています。高校生は何かミサイルの件から、日本は危ないから行かないというような。だから、外国ではミサイルまで考えていて、だから、日本はそんなときで平和なのかなというのは、つくづく感じたりもしています。

今のところ急に、あんまり話もうまくないし、こういう会議も出たことないので、思いつくのはそのぐらいです。

[委員長] ありがとうございます。

続きまして、〇〇さん、お願いします。

[委員] 市内の小中学校のPTA連絡協議会の会長の〇〇でございます。

この地域の担い手ということで考えて、いろいろと、ない頭をぐるぐる巡らしてはきたのですが、もともと自分たちのPTAの役員も、なり手がいなくて困っている状況で、よそ様の団体のことを考えてはいたのですが。

私もPTAのほうをやるきっかけが、たまたま家の前とといいますか、子供が小学校に入るときに、旗振り、それぞれの学校で見守り、登校指導とかやっているのですが、限られた人数でやりますので、危険な箇所を全て賄い切れず、どうしても難しいことがあったり。自分の家の近くのところを旗振りしようかなというのが始まりましたら、歴代のPTAの役員の方が、何かあそこに暇そうな男がいるからやらせようみたいな形で、会長職が回ってきたという状況がありました。

その後、それをきっかけに、今日、〇〇さんいらっしゃいますけれども、桜台センターのほうで何回か顔出しをさせていただいたりですとか、この委員ですとか、いろいろなものに参加をさせていただいているわけなのですが。

多分、私のように、特に私、やりたいと思っていなかったのですけれども、何かやりたい、活動したいという方は、たくさんいらっしゃるのかと思うのです。ただ、そのきっかけがなかなか見当たらない。たまたま私、旗振りをとるので、そこからがスタートでしたけれども、やりたいのだけれども、何できるのというところがあるかと思います。

この委員会で、初めのときにこういった冊子を頂いて、まちサポのほうでも、いろいろな団体さんが登録をされているかと思うのですが、私どものPTA連絡協議会も多分入っているし、桜台のPTAも入っているかと思うのですけれども、その活動の中で会員が限定をされてしまう団体さんもあるでしょうし、限定はしないのだけれども、仲間内でやりたいよという団体さんもあるでしょうし、または、どんどん仲間を増やしていきたいという団体さんもあるかと思うのです。それを色別に分けるなりして、広く募集をしているよという団体さんの広報。私も、これもらわなければ、こんなにあるのだとか、登録をしなければ、これだけいろいろなサークルさんがあるのだというのは全然知らなかったものですから、その公開もそうですし、広く仲間を募集しているというところをもう少しPRをすれば、何らかの興味を持つ方がいらっしゃるのかな。

これについては、まちづくりサポートセンターだけではなくて、社協さん、今日お二人いらっしゃっていますけれども、ボランティア団体のところとかも同じようなことが言えるのかなというふうに思っております。

市民活動支援課という市の中にそういうセクションがあるというのは、私、仕事が八千代なのですけれども、多分、八千代市はないのですね。そういう活動、例えば社協さんが中心にやるとかというのはあるのでしょうかけれども、市として、こういったセクションがあるというのは非常に強みだと思いますので、ぜひ頑張っていただきたいなというふうに思っています。

まずは、ある学校ですと、PTAの組織がなくなるのじゃないかというところまで来ていまして、自分たちの活動もできない、人が集まらないというところで四苦八苦しているところですので。すみません、そこまでしか考えが浮かびませんでした。

[委員長] 貴重な御意見ありがとうございました。

そうしましたら、最後は〇〇さんですかね。

[委員] 私、自治連合会の代表でございますので、私自身は、桜台6番街という集合住宅、364戸あるのですけれども、そこで今、自治会長を3年やっています。

この担い手を増やすアイデア、これは私たち切実な問題で、非常に重要な命題なのですけれども、この命題だけでは、私は片手落ちだと思っているのです。

というのは、この前提となる住民が地域活動、コミュニティを大切に思っているかどうか、これを作り上げることが先だと。これがみんなの、住民が大事だと思うようになれば、自然と担い手は増えるのではないかと。そうすると、住民にそういうコミュニティ精神が大事だということをどうやって身につけてもらうかと。

例えば私たちは、年に1回か2回、クリーンデーという掃除をやるために、みんながそれぞれ出てやるのですけれども、これは清掃の専門の人がいますから、ごみは実際はないのです。なぜやるかという、来て顔を合わせると。そういうことが防災とか防犯とか、そういうことに大事だということで、若干意味がないのですけれども、1時間ぐらい、30分ぐらいやっているのです。

最近、こういう問題が起きました。1年半前ですが、あるお一人、男の70後半の方が孤独死ありました。この方はもう前から、俺は他人の世話にならないと。人と関わりたくないから、こういう集合住宅に入ったのだと。そういう人はたくさんいるのです。私も去年の秋、国勢調査をやったときも痛感しましたけれども、非常に心を閉ざす人というのは多いのです。その孤独死した人は、何で分かったかという、市の回覧板を私たち回して、たまっていたのですね。郵便ポストにも郵便物がたまっていたと。それで1カ月近くになって警察呼びまして、分かったのですけれども。

そのように、俺は人の世話にならないと言いながらも、実際は迷惑をかけるのですね。死んだ後も、臭いもするし。ですから、集合住宅の場合は、管理組合と自治会と二つあるのですが、自治会は任意加入なのですね。強制加入でない。任意加入ですから、私たちは、まず住民に全員加入してもらいたいということで働きかけをやっているのです。毎年3月に、その意向調査をやるのです。これはなぜかという、4月1日現在の会員数を市民活動支援課さんに報告しなきゃいけないと。それに基づいて補助金が出ると、そういう仕組みのためですね。

こうやってやっているのですが、先日も自治連合会の仕事で、松戸市と一緒にZoomで対話したのですけれども、そこで私も言いましたけれども、私のところは、まず担い手の負荷を下げると、負担を少なくすると。そういうことで、まずやったのは、会費をゼロにしたのです。そのときに、松戸市の方びっくりしていましたけれども、データによると、大体、月々三百幾らみんな平均で取っていると。私のほうはゼロなのです。

なぜゼロにしたかという、これは住民を喜ばすためじゃないのです。担い手である役員が、そういうような集金をするという非常に嫌な仕事を解放させようと。誰だって、総論では500円ぐらい払うよとか言いながらも、いざ半年分集金に行くと、ブツブツ文句言ったり、役員はうまいことやっているのじゃないかとか、あるいは留守だったり、何回も行ったり、人の懐からお金をもらおうというのは、大変な負荷なのです。まず、そういう嫌な仕事を止めさせると、そういうことをしました。

それから、私の個人的な意見なのですが、管理組合とか会社とかは、役員という名前を使っていますけれども、自治会ごときと言っちゃいけないですけれども、役員なんて言葉はもう止めようかと思ったのです。というのは、役員をやらないというか、あるいは辞める人に聞くと、サポーターはやりますと。夏祭りのときとか、餅つき大会とか。個々のイベントについては協力しますと。サポーターで協力しますけれども、役員は勘弁してくれ

と。

ですから、役員という名前がどうも重く感じるわけですね。だから、私はもう、今、男4人、女2人で6人の役員がいますけれども、2人ぐらいでもいいのじゃないかと。サポーター構成でやると。それから住民からお金もらっていないので、管理組合ほどの決算とか、そういうのも緩やかでいいのじゃないかと。役員報酬も私たちありませんし。そういうふうにして仕組みを、担い手が楽になるように、いろいろな方面から考えなきゃいかんと思っています。

毎年、役員募集の掲示はするのですが、何年やってもゼロです。隣の4番街もそうです。みんなゼロです。それでどうやってつないでいくかということ、私自身の個人的な人間関係の中でやっていくと。たまたま管理組合の理事長を何年もやったので、人脈はあるので。ただ、私自身がずっとやっていちゃいけないなど。そうすると、人間の輪がいつかどこかで詰まってしまうと。それが私自身の今課題なのです。80ぐらいまでやってもいいのですが、そうすると、後はどうなるかと。そうすると、非常に個人的な人間関係に依存するというのは非常に危ないこと。ということは、やっぱり自治会が必要なのだと、大事なのだと、私たちの暮らしや命に大事だということを住民自身が分かってもらわないと、幾ら担い手のアイデアを募集しても続かないと思っています。

私たちは今、役員の強制はしていません。輪番制ありません。それから会費も取らないと。それでも、会員にならない人が10%いるのです。そうやって背中を向けるというか、自分には何の時間も費用も持出しはしないにもかかわらず関わりたくない、人と交渉するのを嫌がると、そういう人は必ずいるのですね。

そうすると、私たちは、下世話なことを言うと、白井市の補助金は90%しかもらっていないのです。364の90%ですから、約二百七、八十ですけども。

私は要望するのですけれども、会員でなくても、全世帯数を出してほしいのです。私の場合は364戸ですけども、会員はそれに至っていませんが、364戸分の補助金を頂きたいというのが私の本音です。それで未会員を会員に上げる努力をしているわけです。

例えば、夏祭りをやると、その人たちも来るのですよ。来るけれども、券をあげていないから、食べ物とかゲームはできないのです。でも、私たちは非会員の人に対しても、努力はしているわけですね。だから、先行投資的な意味で、規約を変えて市民であればいいのじゃないかと、会員でなくても。そういうふうに変えていただければありがたいかと、そう思っています。

ですから、今、ちょっと長くなりましたけれども、担い手を増やすと同時に、その前提となる住民のコミュニティ意識を本当に根づかせることが先じゃないかと。住んでいて、いいかと、このまちは、この自治会がいいかと、そう思わせるような努力を不断にしなければいけないというのが私の気持ちです。長くなりましたけれども。

[委員長] ありがとうございます。本当に非常に貴重な御意見だと思います。

では、〇〇先生、何かコメントあれば。

[委員] お話も伺いながら考えたこと等をお話しさせていただきたいと思います。

担い手の入り口は、大きく分けると二方向あるかなというふうに思います。

一つは、〇〇委員がおっしゃったように、市から課題を投げかけるという。これはほかの一般的な施策だと、協働事業になると思うのですけれども、例えば横浜市だと、横浜市の協働事業はほとんど地域課題を出して、それに応える市民活動団体を募集するという形になっています。

それは多分、大きな団体が位置づくところで、私たちが今ここで検討している市民活動補助金を使って何か成長したというか、経験を積んだ団体の卒業先を提供するという点では、すごく意義があるのじゃないかなというふうに思います。

もう一つは、もっとちっちゃいところからで、やる気のある人を育てるという方法があるのじゃないかなと思います。地域にやる気がある人とか、何か得意を持っている人、それから、やむにやまれぬ動く人という、そういう人たちの仲間作りを手伝ったりとか、活動の場を出番を提供するという方向性が一つあるかなと思います。

私は、この白井市と同じように関わっているところで、ちょっと田舎なのですけれども、富里というところがあるのですけれども、そこで昨年度、地域活躍塾という4回ぐらいの講座をやったのですけれども、そこでターゲットにしたのが、何かやりたい人ということで。私は富里のことを知らないのですが、集めた人は、ここで言うと、まちサポのコーディネーターさんなのです。その人たちが市内のいろいろな講座とか、いろいろな活動団体とかに顔を出して、アウトリーチですよ。出かけて行って、いろいろな人をつかまえて、つかまえてという呼びかけてくれて、10人ぐらい、少人数ではあったのですけれども、30代、40代、50代ぐらいの男女が集まって、ワークショップも含めながらやって。そこでアイデアとして、何か作りたいものありますかということで考えていったのですけれども、ツリーハウスを作ろうとか、トウモロコシ迷路を作ろうという、そんなアイデアが出て、実際にそれが、ツリーハウスとかがもう動き出しているという。自分のところは畑がある、じゃあ、木材を持っている人を知っているとか、子供とつながりがあるとかという、それぞれが持っている資源を出し合って、その話はどんどん進んでいったというところで。地域にはなかなか、そういうやりたい人とか、得意がある人をつなぐ役割だと、コーディネーターさん、これは、まちサポに期待したいかなというふうに思います。

それからあと、なかなか地域の担い手を作るというのは難しいと思うのですけれども、一つのきっかけとしては、例えば〇〇委員からもお話も出ました、子供たちに期待するというのもありますし、それから子供の居場所とか、子ども食堂って今すごい勢いがあって、そこは子供の居場所ではあるのですけれども、担い手は私たちぐらいの中高年だったり、あるいはもうちょっと上の高齢者の方々に、実際には多世代の居場所というか、多世代の活動の場にもなっているので、そのような形で多世代をつないでいくということもある

のかなというふうに思います。

ただ、そこでも活動の中のコーディネーターさんというのはすごく重要で、先ほど〇〇さんも、いろいろ配慮されて工夫されていらっしゃるのですけれども、それぞれの出番づくり、お客さんにしないというか、出番づくりをする、何かそういう工夫ができる方というのが、一つキーかなというふうに思いました。

あと、最後なのですけれども、コロナ禍ということだと、担い手づくりというか活動の在り方って幾つかあるかなと思うのです。

一つは、対策して、これまでどおりの活動をするという、そういうような感染症対策をしっかりとするという、できるところはすると思うのです。

もう一つは、これまでどおりはできないから、別の活動をするという。例えば子ども食堂をやっていたところが、フードバンク、食材を配るというふうに変えるとかというものもあると思います。

私、もう一つ大事だなと思っているのは、例えば自治会さんとかNPO法人とか、決裁できる方たちがいる組織は、決裁ができるのですけれども、子供の居場所とかの個人の集まりでやっているところって、なかなか決裁する強さがないというか。悪いという意味じゃなくて、活動をやりたいのだけれども、何かあったらどうしようとすごく不安に思っている人たちが地域の中にたくさんいて、そういう人たちとつながりを持ち続けるというのも、コロナが終わった後、少しでも動きやすくなったときに、つないでいくというのは、考えていかなくちゃいけないことなのじゃないかなというふうに思っています。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。

おかげさまで、時間が押しちゃっているので、最後、3点ほど私も言わせていただきます。

まず、1点目が、お話し伺っていて、改めて今日この市民活動推進委員会に集まっていたような方をはじめ、多分、白井市は人材の宝庫だなと思いますので、先ほど出てきたアクティブシニアとか元気な方とか、あるいは現役世代の方も含めて。ですから、多分、宝の山の中、眠っている人材の方をうまく市のほうできっかけを作って発掘していく必要があるのだろうなというふうに思いました。

だから、例えば今日のというか、この委員さんのように、こういう活躍されていますよとか、委員の方を市の広報で紹介してあげるとか。あるいは、例えば市長から感謝状を出すとか、これがいいかどうかは別として、表彰するとか。別にお金は、多分、皆さんお金のためにやっていらっしゃるのじゃないので。ただ、その貢献に対して、市としてちゃんと報いていくという姿勢は大事だなというふうに思います。

あと、もう一点が、ほかの自治体、白井市でやっているかもしれないのですけれども、よく人材の供給機関として市民大学というのが、市民大学出身で団体が作られるというこ

とはよくあるのです。ですから、人によっては、むしろシニアこそ義務教育をやって、みんな60歳になったらとか、65歳になったら1回、1年間ぐらい学校で習ったほうがいいのじゃないかぐらいなことを言う人もいますのですけれども。リカレント教育というか、また学びたいという人の学習、公民館とか既にやられているかもしれないですけれども、そういう学びの機会の中で、こういう市民活動団体がありますよとか、コミュニティ活動としての自治会さんは、こういうふうな活動で頑張っていらっしゃいますよというのを再教育する機会というのですか。教育というとあれかもしれませんが、学習、知る機会というのを作ってあげると、そこから活動に発展する事例というのが、全国的に見て非常に多いものですから、ないなら、ぜひ検討したほうがいいのじゃないかなと思いました。

3点目が、広域連携という話で、例えば、去年かおととしか、荒川の大水害が懸念されたときとかは、事前の広域避難というのが話題になってくると思うのですけれども。例えば北総線つながりで考えると、多分、荒川区とか、江東5区と言われるようなところから、主に白井市とかは、避難を受け入れることないじゃないですか、恐らく。

だから、そういう意味で言うと、日頃から東日本の教訓は、平時からやっておかないと、有事には駄目なのです。津波のときもそうでしたけれども。だから、そういう白井市の中での人材を考えるとというのも大事なのですけれども、例えばちょっと鷹の目といいますか、発想を広げると、千葉県の隣接の市町村ないしは県をまたいで東京都の姉妹都市じゃないけれども、平時からちゃんと連携しておきましょうよと、お互い交流しましょうよとか、そういうことが結果として、もしかしたら関係人口という中での担い手が増えていくかもしれないなということと。

あと最後に、もう一つは、民間の活用というところで、今、民間の企業さんもSDGsとか、ESG投資というところで、すごく社会環境配慮というものが求められるようになっていまして、実際問題、多くの企業が既に取り組んでいると思うのですけれども。例えば拠点の話が出ていたと思うのですが、ドラッグストアさんって結構、今スペースを持っていたりするのです。高齢者が集えるというか、待合スペースみたいなところとか。あるいはショッピングモールとかも、何かできるイベントスペースとか持っていらっしゃると思うのですが、そういったところを一つの団体が交渉するのは難しいかもしれないけれども、例えば市が連携協定を結んで、白井市内にある店舗の遊休スペース、空き時間は、市民活動団体に、まちサポに登録している団体には無料で貸してあげるとか、そういうのは市長が民間の企業を口説けば、やれる話じゃないですか。

別に市役所が全部お金出してやるという時代は、もうとうに終わっていると思うので、今ある資産が、民間が持っているなら、そのヤマダ電機でしたっけ、ケーズデンキでしたっけ、そういう民間の資産はいっぱい眠っていらっしゃるわけだから、病院もあるし、そこを1団体じゃ口説けない相手をしっかり市が責任を持って、協定を結ぶとかということで開拓もできますので、そういったのはぜひ考えていただければいいのかなと思います。

ました。

議論をしなかったのですけれども、皆さんの貴重な御意見の時間が盛りだくさんだったので、すみませんが、また議論は、来年度の第4回とかで、ぜひまたもんでいきたいと思えます。

そうしましたら、最後、事務局さんにお返ししますが。

[事務局] それでは、最後、令和3年度の市民活動推進委員会の予定ということで御説明いたします。資料は4番になります。資料の4です。

来年度は、会議を全部で5回予定をしております。先ほど日程を調整しましたけれども、第1回の審査会、これは6名の方ですけれども、5月19日の水曜日、時間については未定ですけれども、1日か半日かということでお願いいたします。

第2回、こちらが公開プレゼンテーション、これは5月28日の金曜日。

第3回が皆さんが集まる全体会ということで、6月23日水曜日、こちらは午前中ということで設定をさせていただきます。

第4回が11月頃ということで、これは、また第3回の会議のときに決めさせていただきます。

皆様の任期が、令和4年の2月1日までということになっているので、来年度の第4回を終えますと、その後、第5回目は任期替えの後、新しい委員構成で行うことになります。

最後、〇〇課長のほうから一言ありますので、お待ちください。

[事務局] 本日は、議会のため、遅れての出席で誠に申し訳ございませんでした。今回の会議が今年度最後の会議ということで、この1年、皆様には大変お世話になりました、ありがとうございました。

コロナ禍ということで、なかなか市民活動の皆さんの活動自体が進められないという状況、1年間でしたけれども、今後もそういう形が続いていくとは思いますが、いろいろ皆さんからのいろいろな御提案、御意見を伺いながら、市民活動の推進に向けて、来年度も市民活動支援課として頑張っていきたいと思えますので、また次年度も、委員の皆さんには御協力のほどよろしくをお願いいたします。1年間どうもありがとうございました。

[委員長] どうもありがとうございました。

それでは、今日の会議をこれにて終了させていただきます。お疲れさまでした。ありがとうございました。